



2004年2月15日(日)「大高取山ハイキング」に出かけました。場所は、埼玉県越生町。ここは、昨年10月の「黒山三滝ハイキング」の時、訪れました。その時は、越生駅から黒山までバスで移動しましたが、今回は、その途中の「越生梅林」までバスルートを歩きました。梅まつりの準備中の梅林を散策しましたが、梅はまだまだ1分咲き程度。梅林のすぐ先に登山口があり、ここから山道が始まります。大高取山までは緩やかな尾根道。ところが、目指した山頂には、三等三角点の標識があるだけで、展望も無し。ガイドブックに従い、幕岩へ寄り道して、ここで昼食。下山は、桂木観音まで30分。その後は、緩やかな尾根道。途中で柚子畑で柚子取り(ドロボウ)にチャレンジし、上手いかわからないまま見つけ、「すみません」。付近の無人売店で柚子と信じて買ったのは“みかん”でした。たどり着いた“ゆうパークおごせ”で温泉につかり、無料シャトルバスで越生駅に戻ります。観光案内所で“梅干し”“芋がら”“切り干し大根”を買って帰りました。参加者は先月に引き続き、小野勝彦さん、桜井利子さん、町田行弘の3名です。



今回も3人

八王子駅横浜線ホーム、集合時刻間際なのに誰もいません。“...?”横山さんは青梅マラソン出場のため参加できないと連絡がありました。宮部さんはスキー帰りなので欠席とメールがありました。小野さんは...?と、その時、小野さんと桜井さんがホームの階段を降りて来ました。「今回も少ないねえ。加藤さんたちはどうしたのかな?」そういえば加藤さんとは昨年10月の「黒山三滝ハイキング」から会っていません。座骨神経痛がひどいのでしょうか?

ということで、参加者は、前回同様小野さん、桜井さん、町田の3名です。それでも、ギリギリまで待って、八高線ホームへ移動します。前月と同じ8時4分の高麗川行きに乗り、8時48分に高麗川駅到着。9時1分の高崎行き列車で二つ目の越生駅で下車します。越生に着いたのは9時20分でした。



案内人は86歳

何か新しい情報はないかと、“観光案内所”に立ち寄ります。越生梅林の梅は一分咲きで見頃は3月上旬と書かれています。そして、店内の地元の名産を物色し、「帰りに寄りますから」と案内所を出ました。なぜか、スポーツウェアの若者が目につきます。それもランナー風なのです。ここでもマラソン大会があるのかしら?と、そこへ見知らぬおじさんが声をかけてきました。「どちらへ行かれるのですか?」「大高取山へ」「じゃあ途中まで案内しましょう」この方、年齢は86歳というから驚き。歩くことが趣味なのですが、最近は関節が思わしくないので、列車の旅を楽しんでいるそうです。そして、地元越生町の発展



のために協力しているようで、今日もこれから会議があるとか。スポーツウェアの人は、オリエンテーリング大会の参加者だそうです。町役場付近でおじさん(おじいさん?)と別れます。左側の公民館が大会の受付になっていて、ウォーミングアップの参加者が目立ってきました。「かっこいいねえ」などと小野さんが声をかけます。もちろん、声をかけられた方は笑顔で応じます。

梅はやっぱり一分咲き

越生小学校をこえたところの食料品店で一休み。桜井さんは、はす向かいの牛乳販売店で牛乳を購入します。町田はここでソーセージを買って食べます。小野さんは、ステッキを伸ばそうとしたのですが、短くした時締めすぎたのかうまくいきません。それを見ていたお店のおばさんが、ペンチを出してきてくれて、おかげで伸ばすことができました。

黒山三滝に向かうバス通りに出て、30分ほどで、越生梅林に着きました。梅まつりが始まる一週間前とあって、その準備中でした。梅まつりの1ヶ月間は200円の入園料を払うのですが、今日は無料です。でも、梅はほとんど咲いていません。一分咲きという観光案内所の情報は確かでした。子供を乗せるミニSLの試運転をする人の顔が真剣です。





つまらない山頂

梅林を出て、バス通りをしばらく行くと、登山口があります。細いアスファルトの道を上ると2軒の民家を最後に山道が始まりました。緩やかな歩きやすい尾根道が続きます。途中でマウンテンバイクの若者とすれ違ってビックリ。確かにマウンテン



バイクで遊べる地形です。45分で大高取山山頂に到着しました。山頂には“三角点”の標識があるだけで展望もなく、強風です。時刻も11時30分とまだ少し早いので、ガイドブックのお勧めの昼食場所“幕岩”に向かうことにします。少し下ると丸太のベンチがたくさん並ぶ広場があり、ここに幕岩への標識がありました。ところが、幕岩目指して標高はぐんぐん下



がって行きます。本当に展望が期待できるのか不安になってしまふほど。下方向に人だかりが見えてきて、そこは、展望台のようにも見えます。とりあえず、あそこまで下ってみよう。

幕岩の出会い

到着した場所は確かに展望が素晴らしく、ここが幕岩なのでした。さきにここにいたハイカーの一部の人々は“幕岩”を見に下っていきました。小野さんと町田はガスを取り出してお湯を沸かします。冬は暖かいカップラーメンが便利でおいしいのです。そして、食後はコーヒーが。“幕岩”を探しに行った集団が戻ってきました。この場所が幕岩の上にあるわけで、“幕岩”という名所があるのではないのです。そして、彼らは先に出発しました。

しばらくして、1人のハイカー(男性)が現れました。無線のアンテナを持ち歩き、感度の良さそうな場所で交信するそうです。「ここは良さそうですが、お邪魔でしょうから」と去っていきました。そんなことはないのですが、交信内容を聞かれるのがイヤだったのでしょネ。

次に現れたのが髪の毛よりひげの方がりっぱなハイカー。「いやあ、りっぱなひげですね。髪の毛よりすごいんじゃないか





な」小野さんのスリリングな会話が始まりました。「手入れはどうしているのですか？やっぱりシャンプーするのですか？」このハイカーも心得たもので、笑いながら気さくに受け答えしてくれます。この方、若い頃はかなり激しい登山をしていたようですが、最近は、車で低山ハイキングを楽しんでいるそうです。今日は、桂木観音に車を駐車して来たということ。

柚子ドロボウ

今度は、私たちが出発です。さきほど下りてきた道を上り、桂木観音方面へ歩きます。まさに植林されたという杉の中のハイキングコースを緩やかなアップダウンを繰り返しながら進み、最後に急勾配の坂を下ると桂木観音がありました。お寺の鐘は自由に撞いてかまわないようで、桜井さんは実際に鳴らします。トイレ脇の駐車場には車が1台、きつとひげさんの車でしょう。しばらく、車道を歩き、左方向に再びハイキングコースが現れます。そこは、柚子畑の中のコースでした。手を伸ばせば



そんな場所の柚子はすでに取りられてしまっているのか、手が届きません。小野さんは、1つ手でもぎ取り、今度は、ステッキを利用して柚子をたたき落とそうと振り回します。桜井さんもこれに加わります。ところが、作業中のおじさんを見つ（発見された？）、「すみません。1ついただきました」「柚子の収穫は12月だからもう遅いよ」柚子ドロボウはあきらめて、歩き出すと、無人売店があり、一袋100円で柚子が売られています。小野さんが200円払って、二袋買って、一袋は桜井さんへ。



ゆうパークおごせを目指して、緩やかな歩きやすいハイキングコースを足早に下って行きます。途中で桜井さんが「小野さん、これ柚子じゃなくてみかんですよ」「そんなことはないだろう」「でも、ほら」なるほどみかんです。本当だ、ということで、100円で買ったみかん一袋は3人ののどをうるおすことになりました。

あっ！朝の...

14時20分、ゆうパークおごせ到着、ハイキングはここで終了です。1300円はちょっと高い気もしますが、せっかくだから汗を流してさっぱりしましょうと温泉入浴。そして、15時35分の無料シャトルバスで越生駅へ向かいます。シャトルバスから下りた場所はなんと朝立ち寄った観光案内所でした。突入して、土産物を選びます。越生といえば梅干し、めずらしい芋がら、便利な切り干し大根、“今日の思い出の柚子”ワイン、など購入しました。

駅の自動販売機で切符を買おうとすると、「どちらまでですか？」「橋本まで」「じゃここを押して」「あれ！おじさん」「朝の人か」「何やってんですか」「切符の買い方がわからない人が多いから教えているんだよ」「へえー」東武線とJRが同じ販売機で売られているので間違う人が多いかもしれないな。おじさんはもっといろいろお話したかったようですが、列車の時間が迫ってきたので「また、さようなら」「また」会うかな？



町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403
桜井利子	194-0001	東京都町田市つくし野 1-32-17 042-796-9591

